

## シンポジウム

2月11日(日)

第1会場 10:00～11:30

シンポジウム1

## リードレスペースメーカー ー期待と現状ー

座長 松本 万夫 東松山医師会病院/埼玉医科大学国際医療センター心臓内科  
松本 克己 横浜市立大学附属病院循環器内科

## 演者

1. リードレスペースメーカー Micra の概要  
浅野 拓 昭和大学藤が丘病院循環器内科
2. リードレスペースメーカー Micra の臨床成績  
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科
3. 植込みの注意点  
副島 京子 杏林大学医学部循環器内科
4. ステートメントの解説  
栗田 隆志 近畿大学医学部附属病院心臓血管センター

心臓植込みデバイスの問題点はデバイス本体からくる問題とリードによる問題に分けることができる。その状況により患者さんから摘出し、新規に植込みが必要になることが少なからずある。植込みデバイス本体は多くの場合皮下ポケットに植込まれており、摘出は比較的容易である。しかしながらリードは血管内や心臓内で癒着し簡単には摘出することはできない。大切な患者さんに対し植込みデバイスを植込む医師としては、植込んだ後のリードの問題は大きな悩みの種であった。その解決策として、リードのない植込みデバイスの出現が待望されていた。必要は発明の母ともいうが、ようやくその夢の一つが現実化した。それがリードレスペースメーカーである。現状のリードペースメーカーとはどのようなものであろうか？ 実用化したとは言え、その内容は必ずしも完全なものではない。十分な理解の上で応用していく必要がある。そこで本セッションでは、①リードレスペースメーカーの概要について、②リードレスペースメーカーの臨床成績、③リードレスペースメーカー植込みの注意点、そして④不整脈心電学会からのステートメントの解説 をエキスパートの先生方にご講演をお願いした。本セッションにご来場していただければ、本邦でのリードレスペースメーカーの現状と問題点と、その解決について識ることができるであろう。たくさんの皆様のご来場をお待ちしています。

第1会場 13:00～15:00

シンポジウム2

## ICD患者と就労 ーあなたはきちんと指導できていますか？ー

座長 安部 治彦 産業医科大学医学部不整脈先端治療学  
副島 京子 杏林大学医学部循環器内科

## 演者

1. はじめに  
国内におけるICD患者の就労に関わる社会的問題  
安部 治彦 産業医科大学医学部不整脈先端治療学

2. 基調講演

植込みデバイス患者の就労・職場復帰と労働安全衛生法令  
—臨床医が知っておくべき産業保健の基礎知識—

堀江 正知 産業医科大学産業生態科学研究所・産業保健管理学

3. ICD 患者の就労・復職時における社会的・心理的問題点～患者の立場から

中島 文夫 NPO 法人日本 ICD の会

4. ICD 植込み患者への独自の就労調査をふまえた患者ケア

前田 明子 杏林大学医学部付属病院循環器内科不整脈センター

5. 植込みデバイス患者の就労と職場復帰の現状～両立支援に向けて

高橋 正雄 産業医科大学循環器内科

国内においては、ICD 治療患者の就労や職場復帰に関しては社会問題として過去にマスメディアで大きく取り上げられた経緯がある。ICD 患者の自動車運転制限や職場の電磁干渉問題、等は ICD 患者が就労を行なう上で、大きな弊害となることは事実である。しかしながら最大の原因は、これら個々の問題ではなく、労働安全衛生法（労衛法）や労働契約法等による国内独自の法体系に基づく企業（雇用者）の対応に最大の要因があったと考えられる。12 年前に本学会で施行した ICD 患者の就労調査では、ICD 治療を受ける前に就労していた患者の約 4 割が治療後に辞職か休職し、約 2 割の患者が治療後に職場の配置転換を受けていた。当時は二次予防患者が大部分であった患者背景もあるが、これらの事態を深刻に受け止め、日本循環器学会は「ペースメーカー・ICD・CRT を受けた患者の職場復帰・就学・就労に関するガイドライン（2008 年，2013 年改訂版）」を作成し、循環器医への患者指導の指針を公表した。最近、ICD 治療の科学的有効性のエビデンスを背景に一次予防としての ICD 植込み患者も国内で徐々に増加しつつあり、ICD 患者の就労問題は、患者の ICD の一次予防受け入れ判断のみならず、治療後の QOL や社会生活により重要な問題となりつつある。

本セッションでは、産業医学の専門家であり、かつ労衛法が専門である堀江正知教授（産業医科大学）にデバイス患者の就労に際し、我々臨床医が今後どのような点に注意して患者に就労指導を行なうべきか、また最低限知っておくべき労衛法に関する事項、などを基調講演でお願いしている。また、就労や職場復帰問題について ICD 治療を受けた患者の立場から発表いただくとともに、ICD 患者の就労に関する最近の実態や具体的な就労指導、更には今後の両立支援（就労支援と医療支援）への取り組み、等について広く議論する予定である。

ICD 患者の就労や職場復帰に焦点を当てたセッションが本学会で取り上げられるのは、今回が初めてである。ぜひ多くの会員の方に本セッションへ参加いただき、今後の ICD 患者の指導に役立てていただきたいと考えている。